IWC
SCHAFFHAUSEN

ロンゲスト・フライト

スティーブ・ボールトビー・ブルックスとマット・ジョーンズは、英国製航空機スピットファイアで初の世界一周飛行を成功させ、新たな航空史を刻みたいと考えています。2019年夏、2名の英国人パイロットは英国を象徴する航空機で、約43,000キロメートル以上、26か国を巡ります。

スピットファイア - 極めて敏捷で強力な英国製の戦闘機であり、1936年 ～ 1948年までに20,300機以上のプロトタイプが製造されました。航続距離は750キロメートルで、これはロンドンからシャフハウゼンまでの飛行距離とほぼ同じです。

この数値が、スティーブ・ブルックスとマット・ジョーンズによる冒険プロジェクト「シルバースピットファイア – The Longest Flight（最長飛行）」のアイデアをもたらしました。航空史上、スピットファイアによる世界一周飛行の記録はありません。戦闘機は航続距離が限られており、そのような目的のために設計されたものではありませんでした。総飛行距離43,000キロメートルを超える世界一周飛行は、約100の区間に分けて行われます。その航空機は、極めて過酷な状況に耐えなければなりません。極寒のロシア、熱く湿度の高いアジアの気候、太平洋の嵐や砂漠の砂嵐など、機体だけでなく、パイロットや地上のスタッフさえも極限を体験することになるでしょう。

スピットファイアで世界一周飛行をするという大胆なアイデアは、ボールトビー・フライト・アカデミーの創設者である英国人パイロット、スティーブ・ボールトビー・ブルックスとマット・ジョーンズが考え出しました。ボールトビー・フライト・アカデミーは公式に認められた世界で唯一のスピットファイアを使った飛行学校であり、ここではパイロットに英国の象徴ともいえる戦闘機を飛ばす方法を学ぶ機会を与えています。またこの飛行学校は、スピットファイアを飛行可能な状態に維持するために必要な技術的専門知識を、長年に渡り保存し続けています。ボールトビー・フライト・アカデミーは、英国南部のグッドウッド飛行場に本拠を置いています。1940年 ～ 1946年の間、この英国空軍の飛行場は近くのタングミア空軍基地（RAF Tangmere）の拡張飛行場として使用されました。

スティーブ・ボールトビー・ブルックスが記録に挑むのは、初めてのことではありません。彼はヘリコプターで北極から南極まで飛行した最初のパイロットでもありますが、この記録の為には2機のヘリコプターに加え、約100回に飛行を分ける必要があり、達成するのに2年以上もの時間を要しました。飛行時間350時間のマット・ジョーンズは、現代で最も経験豊富なスピットファイア乗りのひとりです。2人のパイロットは、世界中を飛行しながらスピットファイアの技術に関するユニークな生い立ちを紹介したいと考えています。彼らはできるだけ多くの人々に、この飛行機を見てもらいたいと考えています。自由のための大使として、スピットファイアは、今まで着陸したことのない国々にも飛ぶ予定です。スティーブ・ブルックスとマット・ジョーンズは、若者に機械や工学に興味を持ってもらいたいと願っています。こうした機械や職人技への魅力が褪せない限り、スピットファイアはこれからも大空を舞い続けます。

スティーブ・ブルックスとマット・ジョーンズが、来年8月から世界各地を飛行するための機体を見つけたのは、博物館でした。それは1943年にキャッスル・ブロムウィッチで建造され、運用期間中に50回以上飛行した機体でした。その機体は修復のため、部品1つに至るまで分解されました。約8万か所のリベットは一つ一つ慎重に検査され、清掃、もしくは必要に応じて交換されました。「シルバースピットファイア」のすべてのパーツは研磨され、そのクロームのデザインが輝きを放っています。特殊な研磨方法により、使い込まれた機体の味わいを維持しつつ、鏡面仕上げが施されました。これにより、スピットファイアの彫刻的な美しいデザインが、これまで見たこともない程の輝きに包まれました。スピットファイアは、それ自身が重大な歴史を経験しており、最良の「時代の語り部」となることでしょう。この機体のレストア・プロセスには、約14名の専門家が2年以上にわたり携わっています。

IWC Schaffhausen · Baumgartenstrasse 15 · CH-8201 Schaffhausen
Phone +41 (0) 52 235 75 65 · Fax +41 (0) 52 235 75 01 · info@iwc.com · www.iwc.com

飛行ルートはまだ決まっておらず、細かな部分は気象条件によって異なってくるでしょう。しかし、北極の比較的穏やかな気象条件を利用できるよう、英国南部のグッドウッドを飛び立った後は、アイスランドを越えてカナダに入り、そこからアメリカに渡ることになっています。その後、パイロットはインドへ向かい、アラスカ、ロシアを越えて日本、そして東南アジアへと飛行します。その後、「シルバースピットファイア」は中東を経由してヨーロッパに戻ります。

スピットファイアには増槽（予備燃料タンク）を付けないため、750キロメートルごとに燃料を補給する必要があります。そのため着陸する際には、毎回、適切な量の燃料の他にオリジナルのスペアパーツも用意しておかなければなりません。そうしたロジスティクスを担当するプロジェクトマネジャーのラクラン・モンローは、この遠征の成功に欠かせない役割を果たします。「シルバースピットファイア」が上陸する26か国の中には、国ごとに異なる規制や法律があります。したがって、100か所の着陸場所には、それぞれに物流上の課題が存在することになります。遠征の成否は、スピットファイアの整備を担当するチーフ・エンジニアのジェリー・ジョーンズの経験にも左右されます。スピットファイアの機体年齢は高いため、膨大なメンテナンスを必要とし、飛行時間25時間ごとにサービスを受けなければなりません。ジョーンズは長年にわたって機体整備を担当しており、ナット一つ、ボルト一個に至るまですべてを知り尽くしています。

スティーブ・ボールトビー・ブルックスとマット・ジョーンズは、交代で操縦を担当します。映画プロデューサーのベン・アトリーとカメラマンのジョン・ディブスは、随伴機からこの旅を記録しようとしています。さらに、クラシック航空機の分野で最もよく知られるイラストレーターの１人、フランス人アーティストのロマン・ユゴーの描くイラストが、「シルバースピットファイア」の世界一周飛行を、決して忘れられない記録として残すことになるでしょう。

IWC
SCHAFFHAUSEN

IWC シャフハウゼン

スイスの時計メーカー、IWCシャフハウゼンは1868年の創業以来、永遠の価値をもつ時計を製造し続けています。技術革新と創意工夫に情熱を傾け、世界的な名声を確立するに至りました。そして、世界をリードする高級時計ブランドとして、究極の精度と独創的なデザインを融合させ、高級時計製造のマニュファクチュールならではの傑作を世に送り出しています。IWCは環境と社会に対する責任を果たす企業として、持続可能な製造の実践、子供たちや若者を対象とする活動に取り組む世界各国の組織の支援、そして環境保護を専門とする団体との提携を行なっています。

ダウンロード

画像はpress.iwc.comより無料でダウンロードいただけます。

その他のインフォメーション

IWC Schaffhausen
Department Public Relations
E-Mail press-iwc@iwc.com
Web Site press.iwc.com

インターネットおよびソーシャルメディア

ウェブサイト	iwc.com/ja
Facebook	facebook.com/IWCWatches
YouTube	youtube.com/iwcwatches
Twitter	twitter.com/iwc
LinkedIn	linkedin.com/company/iwc-schaffhausen
Instagram	instagram.com/iwcwatches_jp
Pinterest	www.pinterest.com/iwcwatches/
Google+	https://plus.google.com/+iwcwatches